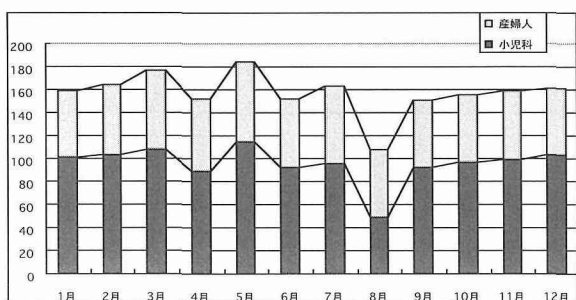


3階西病棟の平成20年を振り返って

3階西病棟科長 工藤 仁美

平成20年の一年を振り返って、月並みだが例年に変わらない落ち着いた一年だった。

下記のグラフは病棟の一年間の入院患者数の推移を示したものである。



一年間の入院総数は、産婦人科744名・小児科1144名、他科の空床利用患者が26名の計1914名だった。

産婦人科の入院では、妊娠12週以降の死産・中絶・早産を含めた分娩総数は517件となった。疾病種類の上位を占めたのは分娩数に含まれるが、帝王切開が50件・他稽留流産26件で他婦人科疾患の筋腫・卵巣嚢腫の手術も少なくなかった。

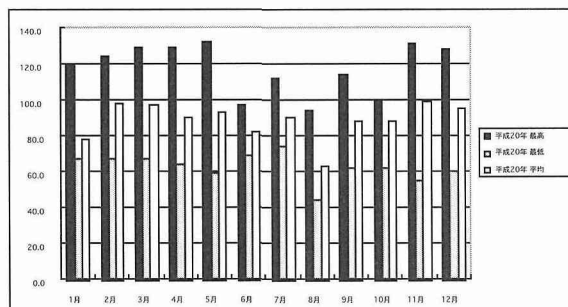
小児科の入院の疾病分類上位は以下のとおりである

病名	入院数
急性気管支炎	141
ウイルス性肺炎	84
感冒	57
熱性痙攣	57
細菌性肺炎	55
胃腸炎	55

上記の表には無いが、年間約500人生まれる新生児のうち、分娩時呼吸不全をはじめ、先天異常など、何らかのリスクがあって小児科入院になったのが220名だった。

年間を通し日ごとのベッド稼働率の変動の激しさが当病棟の特徴だが、最高稼働率は131.6%、最低稼働率は45.0%だった。

下記のグラフは一年を通して、月毎の平均稼働率・最高稼働率・最低稼働率、を示したものである。



40床(10月より38床)の病棟で、年間1914人の患者さんが入退院を繰り返した。その在院日数は、産婦人科が7.8日小児科は6.1日である。

平成20年度の病棟目標は、
・看護を継続させる。(家庭・地域社会・他の医療施設)

- ・クリニカルパスの種類を増やし活用する。
- ・各々が自分の提供したい看護をみつける。

そしてキャリアアップに繋げる。

大きな3つの目標を掲げ病棟スタッフ、関係外来と連携しながら頑張ってきた。

詳しい評価は年度末となるが、全ての目標をクリアできていないのが現状である。

だが其の中でも、全国母性衛生学会での研究発表(蓑島助産師)また、院内看護研究のほかに、TQM活動の研究では講義いただいた立川先生に高い評価を頂くなど、研究活動のほか、学習会・ケーススタディなど病棟内での研修をスタッフ主導で毎月定期的に行ってきた。

また、地域の中で入院施設の減少により、抱える責任は産婦人科・小児科ともに増大している。日々の業務では、業務特性の違う2チームが共働で病棟を動かし、各々が問題を見出し分析・解決し、質を保証できるよう努力してきた。2009年のもっと厳しく課題の多い年になると思う。

最後にもともに働くスタッフに“一年ありがとう”そして、“2009年も宜しく”といいたい。